

第 36 回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録

1. 開催の日時 平成 28 年 8 月 24 日（水）午後 3 時～午後 5 時
2. 開催の場所 鳥取県議会棟 3 階 特別会議室
3. 出席者氏名 出席者名簿のとおり
4. 会議の概要

（1）平成 27 年度評価の決定について

ア 審議結果

- ・ 議長が委員長案（資料 1、2）を諮り、1 か所の加筆修正（資料 2 - 補）した上で、出席委員の全員一致により決定。

【加筆箇所】

資料 2 の 2 ページ、項目別評価「Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する事項」の 2

（加筆前）... 研修実施は評価できる。今後の県内企業の...

（加筆後）... 研修実施は評価できる。外部機関での研修、博士号や技術士（資源工学部門）などの取得推進など、着実に実施している。今後の県内企業の... * 資料 2 - 補が反映版

（2）財務諸表の承認

（3）剰余金（利益）処分に係る意見聴取

イ 審議内容 資料 3、4 に基づき事務局より説明

○ 主な質問及び意見

- ・ 目的積立金と積立金の違いについて

（事務局回答）当期未処分利益を原則積立金として計上することになっており、この積立金は、損失処理のみに使用できる。目的積立金は知事の承認を得て、中期計画に定める用途に使用できる

（4）平成 27 年度評価の鳥取県産業技術センターへの伝達、及び委員コメント

- ・ 委員長から総合評価「A」であること、個別評価の大項目「県民に対して提供するサービスその他の業務の質に関する事項」「業務運営の改善及び効率化に関する事項」「財務内容の改善に関する事項」「その他業務運営に関する重要事項」についてそれぞれ委員会の評価について伝達。

（委員コメント）

- 平成 26 年度実績報告書より記述が工夫され非常にわかりやすくなったが、さらに具体的な事例、実績を交えて記述することで、さらに適正に評価されるのではないかと思料する。
- 公的支援機関として、鳥取県産業振興機構ともっと積極的に連携して対応することを期待している。
- 企業の研究開発力が低下しているので、さらに鳥取県産業技術センターの役割が大きくなっている。
- 企業間の連携や技術（知識）を組み合わせるとか「動きをつくってみせる」ことが鳥取県産業技術センターなどの公的支援の大きな役割である。
- 今後、鳥取県で必要となる人材育成、技術力向上など鳥取県産業技術センターが先導すべく取り組みを続けて欲しい。

（5）その他

- 実績報告書の書式の変更について協議。

→書式の変更ポイントとして持ち運び・保管等に不便となるA3版ではなく、A4横版で「自己評価」を中期目標の下段に配置するレイアウトが提案される。